

特別講座 はじめてのアート

～思考から体験まで、楽しもうじゃないか挑戦者たち～



実施日 2024.05.06

展覧会 [第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」](#)

会場 横浜美術館

協力 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科、大学企画グループ広報入学チーム
井上和(OG)

主催 Artry!

ラファエラ・クリスピーノ《We don't want other worlds, we want mirrors(われわれは他の世界なんて必要としていない。われわれに必要なのは、鏡なんだ)》2013年の前で。

【この講座が開催されるまで】

2022年3月 特別講座「武蔵野美術大学のデザイン思考を体験」 協力:武蔵野美術大学造形構想学部クリエイティブイノベーション学科

<https://www.shinagawajoshigakuin.jp/blog/18327/>

2022年度 上記の特別講座に参加した井上和さん(5年)が、「美術をより沢山の人に楽しんでもらい、好きになってもらう」をテーマに、個人探究に取り組む

2023年8月 特別講座「現代アートを楽しもう」 協力:寺田倉庫株式会社 主催:井上和(6年)

<https://www.shinagawajoshigakuin.jp/blog/33204/>

2023年12月 教科イチ押し見学会 WHAT MUSEUM 協力:寺田倉庫株式会社、井上和(6年)

<https://www.shinagawajoshigakuin.jp/blog/37683/>

2024年3月 特別講座「美術企画を考えよう！」 協力:武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科 主催:井上和(6年)

※井上和さんが卒業にあたり、引き継いでくれる後輩を募集して実施した企画。

2024年5月 特別講座「はじめてのアート～思考から体験まで、楽しもうじゃないか挑戦者たち～」横浜トリエンナーレ鑑賞会 協力:武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科、井上和(OG) 主催:Artry!

※井上和さんから引き継いだ生徒(5年生5人)が、グループ名をArtry!に決定。

【美術企画を考えよう！報告】

◇3月19日 顔合わせ・話し合い

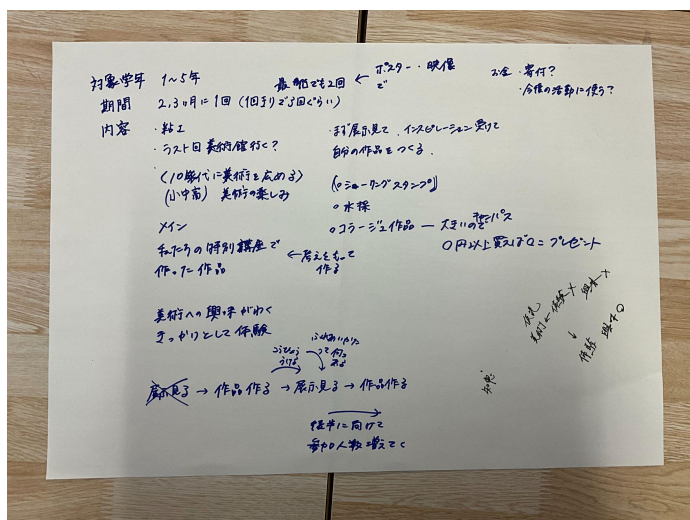
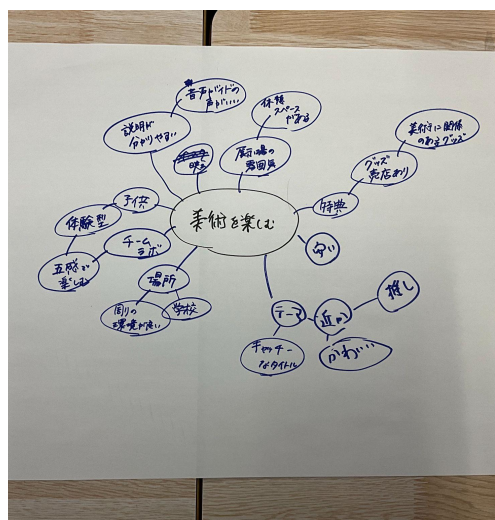


井上和さんはこの春に卒業し、進学先の武蔵野美術大学(クリエイティブイノベーション学科)でも美術をより多くの人に楽しんでもらうことをテーマに探究を続けます。

品川女子学院での活動は頻繁にし続けるのは難しく、引き継いでくれる後輩を募集したところ、4年生5人が参加してくれました！

2回連続の講座で、1回目で考えた美術企画を2回目で発表し、武蔵野美術大学の先生方に講評していただくという流れです。

井上さんが中心となり、ターゲットやインサイトについて話し合っていました。



◇3月22日 各グループごとに提案した企画を発表・講評・その後採用された企画についてさらに話し合い
講師: 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科 杉浦幸子先生・春原史寛先生



短期間ながら発表内容を準備し、講評をいただきました。

「つくる・みる・話す」が一体化しているのがいい、「挑戦者」というタイトルがいい、とお褒めの言葉もいただきました。



そのまま具体的な一歩を踏み出せるような企画内容についてもアドバイスをいただき、生徒たちの企画に杉浦先生が協力するという形で横浜トリエンナーレの鑑賞プログラムをデザインして下さることがその場で決まりました！

講師: 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科 杉浦幸子先生

スペシャルゲスト: 横浜トリエンナーレ総合ディレクター補佐 帆足亜紀さま

参加者:

1年7人 2年1人 3年3人 4年5人 5年5人+企画生徒5人 6年1人 大学生・大学院生7人 計31人



メールやzoomなどを駆使して、杉浦先生のご指導の下、5年生になったArtry! (企画団体名 読み方:アートルイ)の生徒たちが鑑賞プログラムの募集の仕方をデザインし、杉浦先生からご提案いただいたプログラムデザインに意見を述べました。

◇最終的に決定した募集要項の言葉

はじめまして、Artry!です。

私たちは小中高生を対象に美術の楽しさを広める活動をしています。

そこでこの度、、、はじめての特別講座を開くことになりました！

今回の内容は武蔵野美術大学芸術文化学科、通称「芸文」教授杉浦幸子先生と芸文の学生さんたちと一緒に第8回横浜トリエンナーレ (主に横浜美術館)に行き、意見交換をしながら美術に触れることができる企画となっています。

「はじめてのアート～思考から体験まで、楽しもうじゃないか挑戦者たち～」という名前の通り、今回の鑑賞会のあとには、実際に自分たちで作品を作り多方面から美術の楽しさを知ってもらうための特別講座を追加で開く予定です。「美術」という響きを聞くと専門的で難しいイメージをしがちですが、そんなあなたにこそ参加して欲しい特別講座になっています。「美術館に行ったことがない・美術作品なんて何一つ知らないから楽しめない」なんてことはきっとありません！

武蔵野美術大学の方たちとお話することで様々な観点(横浜トリエンナーレの魅力、美術のおもしろさ・楽しみ方など)で新たな発見ができるかもしれない貴重な機会です。美術が好きな方はもちろん、今まで美術に興味を湧いたことない方も奮ってご参加ください！！



そして迎えた当日。

Artry!のメンバーは開始時間1時間前に集合して杉浦先生と下見と打ち合わせをしました。

横浜美術館の外に語り合うために置かれた椅子とテーブルを活用します。



今回は杉浦先生からご提案いただき、井上和さんを含めたArtry!のメンバーがリーダーとなり、6班に分かれて鑑賞することになりました。

杉浦先生のお声がけで、各班には武蔵野美術大学の大学生・大学院生も入ってくださいました。

まずはグループに分かれ、リーダーの声かけにより自己紹介でアイスブレイク。

その後、最初は1人で鑑賞し、気に入った作品の名前と作者名を覚えて帰ってきました。



各班で再集合したら、会場図を広げて、各自のお気に入りの作品を書き込んでいきました。



そして、班員のお気に入りの作品を巡る鑑賞ツアーへ。
作品の前でどんな点が気に入ったかなど語り合いました。

サンドラ・ムジंगा《そして、私の体はあなたのすべてを抱きかかえた》2024年、オズギュル・カー《倒れた木》2023年の前で



再度全員で集まったところに、杉浦先生のお声がけで、なんと横浜トリエンナーレ総合ディレクター補佐の帆足亜紀さまがお越し下さり、生徒たちの報告を聞いてくださいました。

リーダーの報告では、ほかの人の言葉で新たな発見があった、大学生が話してくださったことで大変勉強になった、といった声が聞かれました。



そして、最後に今回の展覧会のコンセプトについて帆足さまよりお話を頂戴しました。

世界各地で辛い思いをしている人たちがいて、でも未来に向けて一歩を踏み出そうという思いを共有する場となることを願った展覧会だそうです。ご指導いただいた杉浦先生からも、今回のArtry!のメンバーも一歩を踏み出して今日の鑑賞会になった、このような小さい実践を大切に、というメッセージを頂戴し、この回は終了しました。



◇参加者より(杉浦先生ご作成アンケートフォームの回答)

1年生: 大学生の方の美術のわかりやすいお話を聞けたことと、1年生のみんなと一緒に美術館に行けたことが楽しかった。

4年生: 他の人が触れて考えたことなど、新しい視点に気がつくことが出来ました！

6年生: 政治や経済の問題点を美術に込めたり、そこから読み取ったりできるということがわかりました。

【Artry!メンバーからのひとこと】

こんにちは、Artry!です。

私たちは美術に対する視点を新しく増やし、楽しさを広めることを理念として活動しています。

今回この特別講座を沢山の方々に協力していただいたおかげで無事開催し、良い形で終わらせることができました。

展覧会は、第8回横浜トリエンナーレ「野草:いま、ここで生きてる」(横浜美術館)です。

横浜トリエンナーレは3年に1回開催され、その時の社会情勢に合った作品を世界各国から集めています。

中学1年生から高校3年生までが参加し、そこに武蔵野美術大学の杉浦先生と杉浦ゼミの学生や院生、卒業生の先輩が招待してくださった美大の大学生や品女の卒業生の方々が来てくださいました。

より良い講座にするために、杉浦先生と沢山の相談を重ねて構成を考えました。

最初に、作品を自分自身と見つめあう時間をとりました。

そして気になった作品をグループで共有し合い、メンバーで作成した作品を巡るルートに沿ってお互いに発表しあいました。

その後、トリエンナーレを開催した横浜美術館の帆足さまに講義をしていただきました。

グループは学校や学年をできるだけ分け隔てないように作り、全てのグループに1人は美大生がいるようにしました。美大生の方々は私たちよりも美術作品の見方のポイントをある程度ご存じであるため、生徒たちの指標になりました。

関わってくれた全ての方に改めて感謝申し上げます。

これからもこの経験を活かして活動を行なうので是非機会があればご参加ください。



←次回の制作体験のための実験をしているArtry!のメンバー

この企画は今後も続きます。